Stage1 増井哲太郎×CANTUS ANIMAE

混声合唱とピアノのための
平行世界、飛行ねこの沈黙

［作曲］増井哲太郎
［作詩］宮岡絵美

「The Premiere Vol.3」では幅広い方々、特に若者をターゲットにした作品を、というお話だったので、詩をお借りする詩人の方もなるべく若い世代に訴求力のありそうな方にお願いしようと考えました。

そんな折、偶然見つけたのが宮岡絵美さんの「鳥の意思、それは静かに」という詩集でした。中でも組曲のタイトルになっている「平行世界、飛行ねこの沈黙」は、易しすぎず、難しすぎず、自分の思い描いていたファンタジックな情景にぴったりの詩でした。

この「平行世界、飛行ねこの沈黙」をはじめ、他に取り上げた「風」、「うたひ手」、「今日わたしは星をかった」の四篇とも平行世界という言葉をキーワードにして作曲しています。

今回の「The Premiere Vol.3」に際して、初演していただく指揮者の雨森文也さん、合唱団のCANTUS ANIMAEの皆さんをはじめ、今回の企画に関わった全ての方に深く感謝致します。

（増井哲太郎）

【詩人紹介】
宮岡絵美
大阪府生まれ。枚方市在住。
京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科卒業。地方公務員を勤めながら、創作活動に勤んでいる。第一詩集「鳥の意思、それは静かに」（港の人）が詩壇の芥川賞と言われる第63回H氏賞最終候補になる。
HP：生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける
http://www.eonet.ne.jp/~tobeistodo/
（「BOOK著者紹介情報」より）

増井哲太郎 MASUI, Tetsutaro

1987年生まれ。5歳よりピアノ、14歳より作曲、16歳より指揮を始める。桐朋学園大学付属子供のための音楽教室を経て、桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）、桐朋学園大学音楽学部作曲専攻を卒業後、同大学研究科作曲専攻を修了。これまでに作曲を香月修、鈴木輝昭、ピアノを小森谷泉、斎木隆、指揮を岡部守弘、増井信貴、高関健、各氏に師事。また公開レッスンにおいて、作曲を福士則夫、指揮を秋山和慶、飯守泰次郎、各氏に師事。現在は出身である狛江や調布などの多摩地域に根ざした作曲、指揮活動を行なっている。2011年には狛江市文化振興事業団主催のエコルマ・アンサンブル コンサート vol.3 において作品が再演され好評を得る。また同人団体「theatre en voix」で毎年、合唱作品を発表している。

CANTUS ANIMAE カントゥス・アニメ ［合唱］

1998年7月、岐阜県在住の雨森文也氏の音楽に魅せられた「歌好き」たち23名が創団。世界に通用する合唱団になろうという、かなり無謀な夢をもって、団名をラテン語で「魂の歌」と名付けた。翌年、全日本合唱コンクール全国大会に出場し、金賞受賞、以降同大会において金賞受賞9回（内1位文部科学大臣奨励賞3回）、2002年には世界合唱オリンピックに出場し、宗教音楽部門で金賞受賞（3位）、混声室内合唱部門で金賞（1位）オリンピックチャンピオンを受賞した。これまでに、自主公演18回、その他レコーディングや各地のイベントに参加している。創団から16年あまり。団員数は50名を超えるほどに成長したが、全員が無類の「歌好き」で、無謀な夢を追う人々であることに変わりない。

【Sop】
梅宮麻衣
大塚未和
長田美会子
佐藤愛里
椿真理
鍋島愛
西本好美
本郷紋子
三角有紀子
宮岸寛子

【Alt】
片平理絵
加藤麻里
久保倉あさ子
齋藤恵
鈴木日佐子
善福えり子
塚本千寿
中村沙耶
成川由希子
菱木明子
古橋典子
建川穂波
山本直子

【Ten】
阿久津知之
上野慎也
落合輝彦
鈴木昭司
竹内誠治
塚本隆
外池周平
鍋島肇
橋本佳幸
吹上ちひろ
藤井崇
宮岸康次郎
山城太一

【Bass】
小田英明
折笠智明
佐藤伸行
都築啓介
椿辰治
野添尚三
林和之
平鹿一久
迎久幸
山田真介
渡辺弘樹

雨森文也 AMAMORI, Fumiya［指揮］

1959年生まれ。指揮法を黒岩英臣、ピアノを立川のぶみの各氏に師事。現在は、CANTUS ANIMAE（東京）、合唱団まい（長野）、SCHOLA CANTHTAORUM KUMAMOTO（熊本）、うた・ふぐるま（岐阜）など8団体の音楽監督を務める。全日本合唱コンクール全国大会で通算24度の金賞を受賞。2002年世界合唱オリンピックに於いてCANTUS ANIMAEが混声室内合唱部門でオリンピックチャンピオン（金賞第1位）に輝き、同時に指揮者賞を受賞。2008年にはアレッツォ国際ポリフォニーコンテスト（イタリア）に於いて合唱団まいが、時代区分別コンペティション（バロック部門）に於いて第1位を受賞し、同時に最優秀指揮者賞も受賞。近時は、中部日本交響楽団との学校公演などオーケストラの指揮者としても積極的に活動している。JCDA日本合唱指揮者協会会員。

■ 演奏に寄せて

私たち現代人は、時間に追われて、めまぐるしい毎日を送っています。何か大切なものを忘れかけているのではないか。宮岡さんのテキストは、私たちを童話的な世界に誘うことで、さりげなく、そのことに気づかせてくれます。その宮岡さんの世界に、増井さんは、身近な音楽のテイストを使うことで、「今までありそうでなかった」新鮮な感性溢れる作品に仕上げてくださいました。若い人たちに、楽しく生き生きと歌ってもらいたい、素敵な作品が生まれました。

平林知子 HIRABAYASHI, Tomoko［ピアノ］

京都市立堀川高校音楽科（現・京都市立京都堀川音楽高校）を経て、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻を卒業。ピアノソロやデュオでリサイタルを開催した他、声楽・弦・管・打楽器とのアンサンブルや伴奏で多数の演奏会、コンクール、講習会に出演、FM放送やCD録音にも参加。新作初演にも多く関わっている。とりわけ合唱との共演が多く、現在、関西を拠点に東京、長野、静岡、愛知、岐阜で計12団体の常任ピアニストをつとめる他、客演の機会も多い。また、大阪の女声合唱団カンティ・サクレでは指揮者をつとめるなど、精力的に活動している。

男声合唱とピアノのための
シーラカンス日和

［作曲］田中達也
［作詩］水無田気流

昨秋、男声合唱作品を書くことが少しずつ増えてきた矢先、カワイ出版から男声合唱の新作を……とのお話をいただき、テキストを探していたところに出会ったのが水無田気流さんの詩集「音速平和」でした。言葉の響きそのものが意味を形作っていくような感覚に、男声合唱という編成との親和性を見いだした私は、すぐさま新曲のアイデアを練りはじめたのでした。

作曲の過程は、音楽作品としての「かたち」を明確に表出すべく、詩句そのものというよりも、テキストから見える情景や空気感と向かい合うところから始まり、さまざまなスタイルを取りつつも、テキストの描き出す世界に音楽を「建てて」いくような心持ちで音を書き付けていきました。

「平和」という言葉が近くも遠くもある現代。この作品が、同時代や次の時代に横たわる諸々と渡り合っている人々の希望を掘り起こすきっかけになれば、と思います。初演・出版にあたり、ご尽力くださった皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

（田中達也）

【詩人紹介】
水無田気流
1970年生まれ。詩人、社会学者。早稲田大学大学院社会科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。立教大学社会学部兼任講師。2013年から朝日新聞書評委員をつとめる。詩集『音速平和』（思潮社）で中原中也賞を、『Z境』（思潮社）で晩翠賞を受賞している
（「BOOK著者紹介情報」より）

田中達也 TANAKA, Tatsuya

1983年東京生まれ。東京学芸大学中等教育教員養成課程音楽専攻卒業、同大学院教育学研究科音楽教育専攻（音楽コース・作曲領域）修了。これまでに作曲を上田真樹、山内雅弘、金田潮兒の各氏に、ピアノを椎野伸一、指揮法を伊藤栄一、山本訓久の各氏に師事。2008年、メゾソプラノとピアノのための「夢みたものは」で第15回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門（中田喜直賞の部）入選。同年、混声合唱とピアノのための組曲「夏の断崖」で第19回朝日作曲賞佳作。合唱作品を中心に、演奏会やCD、放送のための作・編曲を手掛け、作品はカワイ出版などから刊行されている。また、最近では自作を中心に合唱指導や客演指揮なども行い、活動の幅を広げている。近作に、混声合唱とピアノのための「風の吹く日に」（カワイ出版 刊）、混声／女声合唱曲「レモンイエローの夏」、無伴奏混声合唱組曲「ミライノコドモ」など。

なにわコラリアーズ Naniwa Choraliers ［合唱］

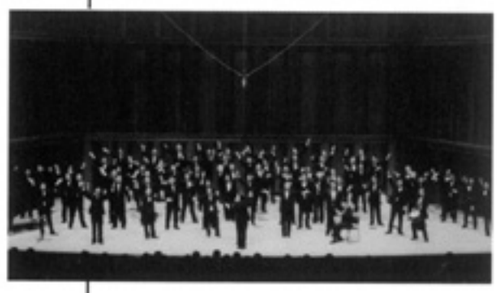
"爽やかにかっこよく"をモットーに、1993年、合唱指揮者伊東恵司によって大阪で結成された男声合唱団。出身やキャリアにとらわれず大らかに合唱を楽しんでいる。全日本合唱コンクール10年連続金賞受賞、宝塚国際室内合唱コンクール20周年記念大会総合グランプリという実績の他、2001年：アジア南太平洋合唱音楽シンポジウム（シンガポール）、2004年：Festival Vancouver（カナダ）、2005年：「世界合唱の祭典　京都」、2009年：台湾国家音楽庁での招待演奏（台北メールクワイヤー主催）等、海外や国際舞台での演奏機会も多い。2014年8月12、13日には第10回世界合唱シンポジウム（ソウル）にて招待演奏を行った。また、委嘱活動にも力を入れており、初演作品も多数。

【Top】
入山慎平
梶原亮
坂下大樹
鈴木勝利
清野賢宏
中山智之
百鬼和俊
播磨剛
日根野谷友博
山崎祥治朗
脇坂典佳
池畑光浩
久堀太士
小林香太
須永紀彦
益田哲也

【Sec】
加藤善昌
北川昇
関内和人
張野正温
前川裕
村上哲夫
金子剛史
丹上敬史
松山大介

【Bar】
石田大士
板垣慎一郎
菅谷俊
田中健也
林和之
東志治
矢内康裕
山口雄人
山中陽一
八幡宏志
加藤晴彦
林竜平
金山豊比古

【Bass】
小泉和大
正川勲
乃村一郎
長谷川良隆
平林雅大
鋒山琢磨
堀江隆宏
山田晋
市之瀬崇
片山大朗
鈴木直人
鷹合洋佑
峯松重喜
村田雅之
古川貴之
国広篤史



伊東恵司 ITOH, Keishi［指揮］

'90年以降多数の合唱団で合唱指導を開始。'99年から出場した全日本合唱コンクールでは「なにわコラリアーズ」の10年連続金賞を始め複数の合唱団で19個の金賞（10度の特別賞）を受賞。宝塚国際室内合唱コンクール20周年記念大会では海外の団体をおさえ総合グランプリを獲得している。現在は、全国各地で審査員や合唱指導を引き受けるほか「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル（京都）」「コーラスめっせ（大阪）」等、合唱を使った多彩な仕掛けを行っており、広く各方面からの注目も浴びている。全日本合唱連盟子どもコーラス委員他。11年カワイ出版より「スチューデントソングブック（共編著）」を上梓。近年では「みなづきみのり」のペンネームで作詞活動を展開。松下耕、高嶋みどり、千原英喜、信長貴富、相澤直人、松本望、北川昇…等の作曲家により合唱曲が多数作られている。

■ 演奏に寄せて

社会学者としても活動している詩人の言葉は、どことなく異次元空間の匂いを漂わせつつも私たちの生きるこの社会の"リアルな手触り"を失うことなく展開されていきます。作曲家は独特の言語感覚を持つ詩的世界から、幻惑的でメルヘンチックな要素と過剰で過激なリズムを慎重に読み込んでおり、様々なフォルムを試しながらも最終的に予想外とも言える調和的世界の中に纏め上げることに成功しています。また、男声合唱の効果的な音域や可能性もよく研究されており、あとは我々が迷いなく力いっぱい演奏するだけ。「よし！相手（曲）に不足なし。100パーセント真剣勝負で熱唱だ！」と、一同意気込んでいます。魅力的なタイトルを持つ男声合唱の、新しい名曲誕生シーンを作り出したいと思っています。

水戸見弥子 MITO, Miyako［ピアノ］

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。同アンサンブル・ディプロマコース修了。1999年、ヨーロッパで活躍するN.J.ジヴコヴィッチ作曲「Die Arten das Wassers」（水の種類）を日本初演。日本ピアノ教育連盟オーディション入選、奨励賞受賞。東京国際芸術協会新人オーディション合格。渕上千里、三浦みどり、G.山根美代子の各氏に師事。F.W.シュヌーア、W.リーガー、K.リヒターの各氏にも教えを受ける。現在は、声楽、合唱、室内楽をはじめとする全国各地でのコンサートやレコーディング等、アンサンブルピアニストとして活発に演奏活動を行っており、東京・春・音楽祭での「パルジファル」「タンホイザー」、都響「第九」「イワン雷帝」等の音楽スタッフを務め、文化庁「本物の舞台体験事業」では、ピアニストとして参加している。

Stage3

三好真亜沙×女声アンサンブル Juri

女声合唱とピアノのための
冬が来た

［作曲］三好真亜沙
［作詩］高村光太郎

この作品は、高村光太郎の冬に関する三篇の詩（『冬が来る』『冬が来た』『冬の奴』）に『孤独が何で珍しい』を加えた全四曲で構成されています。

彼の詩には、周りとの関係を分断しあまつさえ自分の命をとりかねない「冬」に、積極的に立ち向かっていこうという姿勢が一貫して感じられます。

また、一見繋がっているように見えて、実は皆「ひとり（孤独）」なのではないか、と問い直すことで、改めて他人と分かち合ったり繋がれるということに、新鮮なよろこびが生まれるのではないか……という現代にも通ずる問いかけを感じます。

冬のキビシサ、というより、これらの詩に表れている、人が本来持っている「強さ」を表現しようと試みました。ほぼ終始にわたって様々な音域で多声的に絡み合う女声パートと、時に女声に寄り添い、時に分断するピアノとのアンサンブルの妙をお楽しみ頂ければ幸いです。

最後に、本日初演して下さる指揮の藤井宏樹さんとアンサンブル Juri の皆様、そして作曲にあたってお世話になった全ての方々に感謝申し上げます。

（三好真亜沙）

【詩人紹介】
高村光太郎
（1883 -1956）
彫刻家・高村光雲の長男として東京に生まれる。1906 年に欧米留学、美術・彫刻の他にボードレールらの詩を学ぶ。帰国後、美術評論、評伝で活躍。'14 年、処女詩集『道程』で芸術院賞を受賞。
（「BOOK 著者紹介情報」より）

三好真亜沙 MIYOSHI, Maasa

1990 年京都生まれ。6 歳よりピアノを、17 歳より作曲を始める。京都市立京都堀川音楽高校を経て、東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業。現在、同大学院音楽研究科作曲専攻修士課程在籍中。2010 年第 5 回東アジア国際作曲コンクール第 3 位。東京藝術大学木曜コンサート（室内楽作品）及びモーニングコンサート（オーケストラ作品）選抜。学内において長谷川良夫賞及び同声会賞受賞。在学中より、東京及び関西を拠点に活動を行い、東京オペラシティリサイタルシリーズ「B→C」をはじめとする様々な演奏会において作品が取り上げられている。クラシック・現代音楽の領域での作曲活動のほかに、朗読と音楽のコラボレーションや、映画やゲームなど映像作品への楽曲提供も行う。また、伴奏ピアニストとして全国各地で演奏を行っている。これまでに作曲を平田あゆみ、平野一郎、安良岡章夫の各氏に、ピアノを瀬井綾、大畑博貴、白石光隆の各氏に師事。

女声アンサンブル Juri　Female Ensemble Juri ［合唱］

1992 年結成。全日本合唱コンクール全国大会で金賞 4 回、併せて日本放送協会賞、文部大臣奨励賞（2 年連続 2 回）受賞。1999 年アレッツオ国際合唱コンクール（イタリア）等声部門 2 位、2003 年トロサ国際合唱コンクール（スペイン）ヴォーカルアンサンブル部門の「宗教曲」「世俗曲」両部門で 1 位となり総合 2 位。ヴェゾン・ラ・ロメーヌ合唱フェスティバル及びモルバン・オータン音楽祭（フランス）など、国内外に招聘され演奏する機会も多い。また寺嶋陸也氏プロデュースによる小さなコンサート・シリーズ「寺嶋陸也ピアノリサイタル with Juri」を継続して開催。委嘱曲「クラーン・リル」（鈴木輝昭）、「春と詩」（寺嶋陸也）

【Sop】
阿部茉莉奈
石丸直美
白石明香
鈴木香奈海
丸山淳子
水上理江

【Mez】
飯田里美
飯田史応
小西彰子
高橋美羽
中静真佑
中世古楽
仲底優里
道下由貴

【Alt】
雨宮昌子
岩田美希
神部茉由
佐藤文香
横山紅子

藤井宏樹 FUJII, Hiroki［指揮］

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。声楽を畑中良輔氏に、指揮を黒岩英臣氏に師事。現在、全 11 団体を有する《樹の会》、Ensemble PVD の音楽監督を務める。国内外の合唱コンクールにおいては 1 位、2 位という高い評価を得て、海外に招聘される機会も多い。近年では全日本合唱コンクール等の審査員や、合唱講習会の講師、現代作曲家への委嘱活動、Tokyo Cantat 等の企画も積極的に行っている。オーケストラとの共演も多く、東京交響楽団などとともに数多くの演奏を指揮し、好評を博している。合唱人集団「音楽樹」副代表幹事。東邦音楽大学特任准教授。JCDA 日本合唱指揮者協会会員。

■ 演奏に寄せて

彫刻家、高村光太郎は自らの詩作について、彫刻家として純粋に向き合うためには、自身の中に絶えず湧き上がる、自らを取り巻く時代や環境に向かう意識、思想や葛藤、感情などの多様な感性の吐き出しを必要とした。そのひとつが詩作であると、語っている。冬の詩人とも言われた彼の冬に対する意識は、喪失による渇き、孤独感など人に訪れるある種の苦悩を置き換えているように感じる。そしてそうした極限的な状況であるが故に生まれてくる未知の生命力への期待。これらがあたかも讃歌であるが如く描かれている。三好さんの手に取られたこれらの言葉は、様々な音楽の時空に遊び、まさに自由奔放な衣を纏った。

五味貴秋 GOMI, Takaaki［ピアノ］

静岡大学教育学部音楽科卒業。山梨大学大学院修士課程音楽科ピアノ専攻修了。ピアノを根木真理子、酒匂淳、東誠三、寺嶋陸也の各氏に師事。第 53 回山梨県芸術祭音楽部門にて優秀賞受賞。大学院在学時より藤井宏樹氏のもとで合唱活動を行う。樹の会ユースクワイア～奏～団内指揮者。Ensemble PVD コンサートマスター。

Stage4 名田綾子×松原混声合唱団

混声合唱とピアノのための いのち

［作曲］名田綾子
［作詩］工藤直子

ひとは
いのちに「かぎり」がある　って
どうして　わかっちゃった
たかな

この一節に、不意に目を奪われたことからこの作品はスタートしました。心にすとんと落ちるような感覚でした。

人が生きている中でいつもそこにある「いのち」。当たり前にあるようで決して当たり前ではないその煌めきや儚さに思いを馳せ、六曲を書きました。時に踊りだすような、また時に優しく寄り添うような工藤直子さんの瑞々しい言葉たちに、私の心の感じるままに音をつけました。書法は決して難解なものではなく、ごくシンプルに、少しのユーモアをスパイスに。

私にとって混声合唱のオリジナルとして初めての作品ですが、このような素晴らしい機会をいただき、ただただ感謝の思いでいっぱいです。指揮の清水敬一先生、ピアノの小田裕之先生、松原混声合唱団の皆様、そしてカワイ出版の早川由章氏をはじめお世話になった皆様に心より御礼申し上げます。

（名田綾子）

【詩人紹介】
工藤直子
1935年台湾生まれ。詩人・童話作家。詩集『てつがくのライオン』（絵・佐野洋子）で日本児童文学者協会新人賞、『ともだちは海のにおい』（絵・長新太）でサンケイ児童出版文化賞、『のはらうた』で野間児童文芸賞など受賞。
（「BOOK著者紹介情報」より）

名田綾子 MEIDA, Ayako

兵庫県立西宮高等学校音楽科、東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、同大学院修士課程修了。作曲を長谷川京子、藤原嘉文、澤内崇、林達也、小鍛冶邦隆の各氏に、ピアノを菅千種、林敦子、成瀬修、中井正子の各氏に師事。近年の作品発表は、落語と音楽のコラボレーション「かがみ」（2010年／東京文化会館など3公演）、「サクソフォン四重奏曲」（2011年／大阪・フェニックスホール）、フルートと箏のための二重奏曲「Spice」（2011年／アメリカ・カーネギーホール）、児童合唱組曲「おやつのうた -Sweets Suite-」（2012年／愛知・しらかわホール）、フルートとピアノのための「煌めきの在処」（2013年／兵庫県立芸術文化センター小ホール）など。カワイ出版より、童謡名歌集「日本の四季めぐり」（女声・混声）、「歌います、朝ドラ。」（女声）、「おやつのうた」（児童合唱）、「イタリア歌めぐり」（混声）を出版。作編曲家、ピアニストとして活動する傍ら、ヤマハJOCスタッフ・創作講座講師として全国各地で講座を行っている。

松原混声合唱団 Matubara mixed chorus ［合唱］

1953年に東京都世田谷区松原で誕生。1962年から関屋 晋の指導を受けるようになり、1973年全日本合唱コンクール全国大会に初出場で金賞を受賞。1980年小澤征爾指揮でマーラー交響曲第8番《千人》が演奏される際に、関屋 晋指導の合唱団の連合体である晋友会合唱団が誕生してからは、その一員として国内外の有力オーケストラとの協演、レコーディングなどに参加している。松原独自としても活発な演奏活動を行っており、現代日本を代表する作曲家による合唱曲の初演も数多い。最近では、単体でのオーケストラとの共演の他、今年度改訂された高校音楽教科書の教授資料・指導用ＣＤの録音も行っている。常任指揮者、清水敬一。

【Sop】
阿野光希
氏家みちえ
小川まなみ
勝赤緑
神林純佳
木内秀香
佐藤栄子
武田真樹子
田村陽子
戸川恵子
中村由樹絵
鍋島愛
宮崎紀子
八木真理
山崎里織

【Alt】
有賀さなみ
池本詩穂
伊守久美香
宇津木里沙
岡田福美
北村真琴
小林嘉子
佐藤順子
阪本泉
秦真由美
谷原裕美
羽鳥紀子
日高初枝
吉田佐和子

【Ten】
大谷君男
慶野博則
菅原章雄
直井信吾
中村正勝
鍋島肇
林興史
藤原彰吾
真下洋介
宮地千尋
鷲田洋隆

【Bass】
相本健佑
榎本峻
加藤悠太
木下真司
倉本潤季
佐々木潤哉
神保一樹
鈴木文也
野口翔
野村維男
宮田一作
吉山智之

清水敬一 SHIMIZU, Keiiti［指揮］

1959年東京生まれ。1982年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。指揮法を遠藤雅古、V. Feldbrill、合唱指揮を関屋 晋の各氏に師事。現在およそ20の合唱団の指揮を任される。各地で合唱とオーケストラのための作品のコーラスマスターを務める一方、初演した現代作品も多い。国内外の音楽祭、作曲コンクール・合唱コンクールの審査員を歴任。2005年に開かれた第7回世界合唱シンポジウムでは講師を務めた。1995年の番組開始以来、NHKラジオ'みんなのコーラス'へ レギュラー出演を16年間続け、2011年からは同番組スタッフが管理するウェブサイト'N コン on the Web'の講評を担当。著書に『合唱指導テクニック』（NHK出版）。現在、東京都合唱連盟副理事長、全日本合唱連盟理事、JCDA日本合唱指揮者協会理事長、東京芸術大学講師。

■ 演奏に寄せて　～いまうまれるいのち～

新しい作品との出会いには、喜びがあります。今日は特にその想いを強く持っています。松原混声合唱団が向き合ったのが、工藤直子さんの詩をテキストとする《いのち》という合唱曲なのですから。名田綾子さんの音は軽やかに美しく、深い思索を親しく語る言葉に寄り添います。切なさと感傷を湛え、しかし、答えのない問いを生き抜く私たちを、日常の中で一瞬の気付きへと導いてくれる音たち。今日、素晴らしい演奏家の皆さんと共に、新作たちの誕生の場に居合わせられることに感謝致します。

小田裕之 ODA, Hiroyuki［ピアノ］

桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業後、プラハで巨匠イヴァン・モラヴェッツの高弟であるＢ．クライニー氏の許で薫陶を受ける。2003年に日本へ帰国。日本演奏連盟、日本ショパン協会主催リサイタルの他、日本センチュリー響やフィラルモニカ・プラショフ響等と共演。室内楽や伴奏の分野でも活躍し、その演奏は内外で高い評価を受けている。特に東欧の作品に対する評価は高く「ヤナーチェクの豊穣な想像力を見事に表現した」等と評された。現在、ピアニストとして活躍する傍ら後進の指導にもあたり、カワイ音楽振興会課題曲講座、（公財）日本ピアノ教育連盟関東甲信越支部運営委員として課題曲公開レッスンを務めるなど多岐にわたり活動。桐朋学園大学講師、日本ショパン協会正会員。日本合唱協会ピアニスト。

THE Premiere Vol.3

夏のオール新作×初演コンサート

2014年
8月30日
紀尾井ホール

【主催】
The Premiere Vol.3 実行委員会

【協賛】
カワイ出版

【協力】
有限会社アールミック
ジョヴァンニ・レコード事業部

【後援】
一般社団法人全日本合唱連盟
東京都合唱連盟
JCDA 日本合唱指揮者協会
21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」

Stage5 北川 昇× Premiere Choir（合同演奏）

無伴奏
混声合唱のための
花は咲く

［作曲］菅野よう子
［作詩］岩井俊二
［編曲］北川 昇

五年前のPremier Vol.1で作品を発表させていただき、歌い手としても三回連続の出演となりました。出演の度に他の作曲家から刺激を受け、もっと精進しなければいけない、と思いを新たにする場でもあります。

今回は、思い入れのある「花は咲く」を、自分の個性が最も出る無伴奏でのアレンジにしてみました。編曲の機会を頂けたこと、素晴らしい合唱団による合同演奏で初演していただけることに心から感謝したいと思います。

北川 昇 KITAGAWA, Noboru

1983年、神戸生まれ。大阪音楽大学音楽学部作曲学科作曲専攻卒業。同大学院音楽研究科作曲研究室修了。作曲を下村正彦、千原英喜の各氏に師事。新潟アジア文化祭 Asian Youth Choir 2004のオーディションに合格、テノールメンバーとして参加。2002～2010年、ジャパンユース合唱団で合唱の研鑽を積む。作曲活動の傍ら、合唱講習会講師、コンクール審査員等として全国各地に招聘されている。また、早稲田大学グリークラブ、女声合唱団「歌姫」（愛媛）、佛教大学混声合唱団（京都）等の演奏会にて委嘱作品を自ら客演指揮するなど、自作品を中心に合唱指揮の分野でも活動の幅を広げている。「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル（京都）」実行委員、「コーラスめっせ（大阪）」幹事、「エントアール」副指揮者、Ensemble Radiance 主宰。淀川混声合唱団、なにわコラリアーズ所属。

復興支援ソング「花は咲く」について
NHK東日本大震災プロジェクト「明日へ」のテーマソングとして生まれました。作曲の菅野よう子、作詩の岩井俊二ともに、宮城県出身です。著作権料は、義捐金として被災地に届けられます。